

**国道2号等 神戸三宮駅前空間整備事業計画検討会
(第2回) 議事概要**

1. 日 時 2019年12月23日(月) 10:00~12:00

2. 場 所 神戸市役所1号館14階 大会議室

3. 出席者

[座 長] 小谷 通泰 (神戸大学 名誉教授)

[委 員] 正司 健一 (神戸大学大学院 経営学研究科 教授)

井料 隆雅 (神戸大学大学院 工学研究科 教授)

(敬称略)

近畿地方整備局、兵庫国道事務所、兵庫県、神戸市、雲井通5丁目再開発(株)、
兵庫県バス協会、兵庫県警
事務局(兵庫国道事務所・道路計画第二課・神戸市)

4. 議 事

(1) 挨拶

神戸大学 名誉教授 小谷 通泰

(2) 審議

- ・「検討事項の確認」、「神戸三宮駅前空間における施設計画の検討」、「今後の流れ」について事務局より説明。
- ・第2回検討会までの検討内容を踏まえ、事業計画をとりまとめていくことを確認。

<委員からの主な意見>

1) 検討事項の確認

2) 神戸三宮駅前空間における施設計画の検討

2-1) 魅力的な駅前空間を創出する三宮クロススクエア・人の賑わいと回遊性を創出するデッキ

- ・JR駅ビル南側と再開発ビル南側のデッキ高さが違うことを表示すべき。

2-2) 集約型公共交通ターミナル

- ・バスターミナルの限られたスペースと容量の中で、バスがスムーズに走行できることが重要。
- ・サービスレベルを確保する上で、付帯設備についても利用者数を考慮して、導入する機能の規模等を検討すべき。
- ・バス需要が増加している中で、まず再開発ビル内でできる限りバスを捌くとともに、国道2号上も含め三宮駅前空間全体でバース配置を検討すべき。
- ・Ⅱ期工事期間中に一部のバースが使えなくなることを考慮することが必要。

- ・ 平常時以外も考慮すると、出入口は複数確保すべき。
 - ・ 近郊バス等予約なしで乗れるバスは待ち行列ができることを考慮した乗降場の広さやバース配置の検討が必要。
 - ・ 国道2号上にバースを配置する場合もバス利用者の動線の検討が必要。
-
- ・ バス案内所を整備すると同時に共通乗車券や予約システムの統一等、ソフト面での対策を検討することで、効率的にバースを使用することができるのではないか。
 - ・ 目的地への距離によってピーク時間帯が変わってくることから、バース運用を柔軟なものにすることで、限られた施設空間を効率的に最大限活用できるよう全体としてマネジメントしていくことが必要。
 - ・ 市内の観光に資するバスの集約について、具体的にどのようなバスか定義を明確にする必要がある。
 - ・ 観光案内所は、利用者のニーズを踏まえると同時に、三宮全体の中での配置と機能を考えることが必要。
 - ・ バスターミナルへのニーズに対応するにあたっては、再開発ビルや周辺商店街等、周辺の機能を考慮する必要がある。

2-3) 防災都市・神戸の駅前防災拠点

- ・ 地域防災計画との連携、I期・II期の各整備段階での災害時の使い方も考えることが必要。
- ・ 固定設備のみでなく、モバイル端末への防災情報提供も必要であり、平常時も活用できる情報の共通化・連携が重要。

2-4) 回遊性を向上させるモビリティネットワーク

- ・ 国道2号の空間活用については様々なものが考えられるため、空間の使い方を早めに検討し、課題を出し、空間設計を実施することが重要。
- ・ モビリティ・スポットについては、起終点の需要や空間の使い方によって決まるのではないか。
- ・ 空間再編に伴う渋滞の発生も考えられるため、周辺の道路整備もあわせた検討が必要。
- ・ モビリティ・スポットの設置場所の考え方について、歩行者の自然な流れを妨げないことが必要。
- ・ モビリティ・スポットについて、駐輪場と共存できるのか今後検討していく必要がある。

2-5) 管理・運営手法

- ・ バスターミナル内の各機能の所有区分・管理区分・運営区分・道路区域について、国、再開発会社、事業協力者、神戸市で連携して今後も継続して議論していくことが必要。
- ・ 新バスターミナルだけでなく国道2号やミント神戸、駅前の周辺空間も含めてバス

ターミナルの一体運用の検討が必要。

3) 今後の流れ

- ・今後の流れについて了承。

以 上